

お知らせ

お知らせID : 587

2026年6月8日

健康・安全トピックス6月号(第3版)

[事務局]

6月テーマ「蜂さされ対策」

※詳細はSmil to Smil「お知らせ」欄のPDFをご確認下さい

前年度の7月から9月にかけて「蜂さされ」による傷害事故が6件と過去に発生した蜂さされ事故のワースト件数でした。これからの期間、屋外作業に従事される会員皆様方におかれましては、蜂の習性をよく理解していただき蜂を確認した場合の適切(安全)な対応をお願いします。

●令和7年度「蜂刺され」による傷害事故

- 1件目：R7.7.1 灰皿清掃するため水道のところに置いてあった金たわしを掴んだ際、そこに止まっていた蜂に刺された 2件目：R7.7.2 植木手入れ作業中、切り落とした枝の山を片付けていたところそこから飛び出してきた蜂に刺された 3件目：R7.7.10 歩道上のツツジの刈込作業中、スズメバチに刺された
- 4件目：R7.7.30 植木手入れ作業中、飛び出してきた蜂に刺された
- 5件目：R7.8.29 敷地内で剪定をしていたところ、アシナガバチが飛び出してきた刺された
- 6件目：R7.9.4 草刈り作業中、草むらから飛び出してきたスズメバチに刺された

※今後の作業時に上記場面を参考にして蜂刺されに注意してください!

● 健康・安全トピックス6月号（第1版）

蜂の種類とその対策

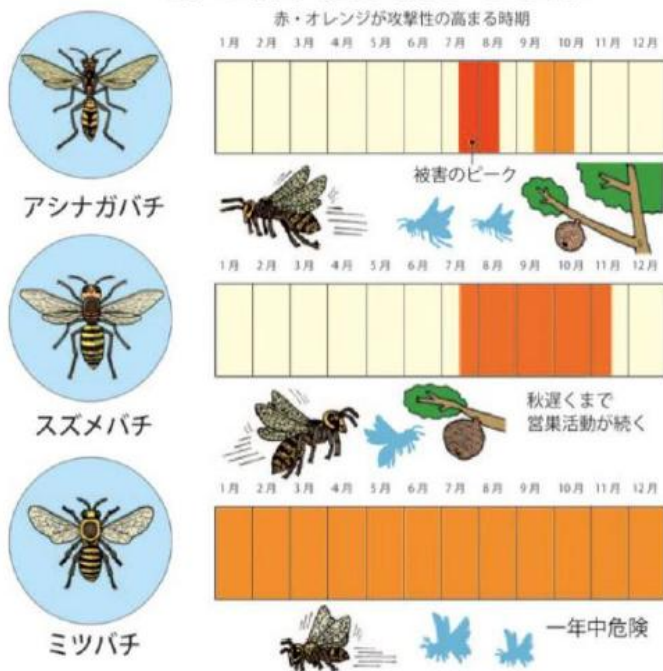
※引用：林業・木材製造業労働災害防止協会より

[蜂に注意」労働安全衛生対策」林業・木材製造業労働災害防止協会](#)

1

蜂の攻撃性が高まる季節

赤・オレンジが攻撃性の高まる時期



2

1) 蜂の攻撃

蜂が近づいてきたら、速やかに危険区域から遠ざかること。

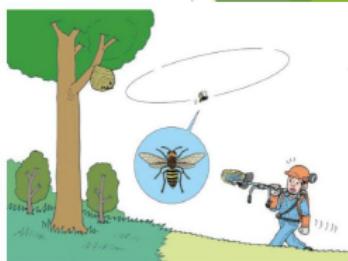
蜂は、無差別に人に攻撃をしかけるわけではありません。
スズメバチの攻撃は、次の4段階に分けられます。

1. 巣に接近する人に対する警戒

巣の出入り口や表面にいる蜂は、人や動物を注視する一方で一部は巣を離れて周囲を飛び回ります。

2. 巣に接近する人に対する威嚇:

警戒していた蜂が高い羽音を発して飛び回ります。
オオスズメバチはおおごをかみ合わせ、空中でカチカチという威嚇音を発します。



3. 巣に間接的刺激を与えたときの攻撃:

蜂の威嚇を無視したり、これに気がつかないとき、
また、巣に振動を与えたとき等は、巣内から多くの蜂が飛び出して大騒ぎとなります。

4. 巣に直接的刺激を与えたときの攻撃

巣を直接に刺激したり、巣を破損した場合は、入口にいた蜂とともに、
巣内から多くの蜂が一斉に巣の外に飛び出してきて、文字通り、「ハチの巣をつついた騒ぎ」になります。興奮の激しいときは、相手の体に噛みつき、何度も毒針を突き立てます。

2) 攻撃を受けやすい色、服装等

スズメバチは、黒地の着衣、毛皮等は、巣の近くでは攻撃を受けやすいので、蜂を刺激するような衣類、匂い等は避けること。

- ・スズメバチは、黒い物にもっとも激しく反応し、攻撃を加えます。
ただし、ミツバチは、色にあまり反応しません。

- ・蜂は、ヘアスプレー、ヘアートニック、香水等の化粧品、体臭等に対して、敏感に反応します。
特にミツバチは、巣の近くに関係なく、各種化粧品の匂いに興奮をすることがあります。

- ・スズメバチは、衣類だけでなく、黒い長靴、カメラ等も攻撃します。

- ・野外でジュースを飲むときも蜂に注意します。
ジュースや飲料水の残りの液をえさにして
いるスズメバチを多く見受けます。
飲んでいるとき、近寄って来て缶の中に
もぐり込み、口や唇を刺されることがあります。



3) 蜂に刺されたときの症状

蜂に刺されたときの症状には、刺された場所のまわりにだけ現れる局所症状と、体中にでる全身症状とがあるので、症状をよく観察し、直ちに緊急処置を行うこと。

<全身症状>

- ・ 軽度：顔や体が酒を飲んだ時のように赤くなり、全身にかゆみが起こり、なんとなくだるい、苦しいといった症状があらわれる。
- ・ 中度：軽い全身症状に加えて、喉が詰まったような感じがして胸苦しくなったり、口が渇き、口のなかがしびれたような感じがする。
- ・ 重度：息をするのも苦しくなり、物を呑み込めなくなり、声がしわがれて、全身の力が抜け、その場にうずくまってしまう。
また、目が見えなくなったり耳が聞こえなくなったりして、意識がはっきりしなくなったりしますので、一刻を争って緊急処置をとらなければ、死亡してしまう。

4) 蜂に刺されたときの処置

蜂に刺されたときは、次のように処置すること。

1. 刺された場所から離れ、木陰などの付近に退避し、刺されているところをきれいな水で洗う。
2. 赤く腫れはじめたところに、抗ヒスタミン軟膏を塗る。
3. 初期症状として、発疹、流涙、せき、嘔吐、下痢等の症状が見られる場合は一刻も早く医師の手当てを受けるようにする。
注：患者を移送するときは、決して背負わないで担架で救急車まで移送する。

